

子ども登山教室がいよいよ始まりました

今年度、新しく実施した子ども登山教室がいよいよ始動しました。説明会の後、第1回目の高尾山、そして第2回目の伊豆ヶ岳と実施し、子どもたちに山のすばらしさを少しずつ味わってもらいました。今回の子ども登山教室は、2人だけの参加でしたが、少ないことを逆にプラスに転じ、親御さんの意向を反映して登山教室を進めたいと思います。

★説明会(4月21日)報告

参加者 中1の男子2名と親御さん合計4名
スタッフ7名、会員5名

装備、登山の食料、パッキングの仕方、読図の基礎、気象の基礎、登山の詳細日程の説明を行った。



子ども登山教室を開始するに当たって、親御さん向けに、登山教室の進め方、運営体制、登山に伴う危険と回避方法、山道の歩き方、登山

当日は、実際に登山に参加する中学1年生の男子二人も出席した。子どもたちの真剣に説明を聞く姿勢に、会員一同、今後の登山教室への期待が膨らんだ。

★高尾山(4月29日)報告

参加者 中1男子2名、親御さん1名
スタッフ6名
別働隊 スタッフ(3名)
会員(障害者3名、健常者6名)



今日は、子ども登山教室第1回目の高尾山だ。これ以上ない好天に恵まれ、勝田台から新宿を経て、高尾山口駅に到着する。駅のトイレに長蛇の列ができるほど、駅の外は人であふれかえっている。迷子にならないように、全員が揃ったところで、自己紹介を行い、Nさんが講師となって準備運動のストレッチを行う。

駅前の看板で、今日歩くコースを確認し、ケーブルの清滝駅に向かう。清滝駅から、6号路に入る。ニリンソウやヒカゲスミレを観察しながらコンクリートの道を登っていくと、次第に山道になっていく。子どもたちは、岩の上が滑りやすいと感じたり、狭い道から落ちないように注意することが必要なことを感じ取りながら登っている。琵琶滝で少し休憩し、さらに上を目指す。ヤブサメやコマドリ、オオルリなど、夏鳥の歌声が聞こえてくる。大山橋に着いたところで、Hさんから子どもたちに、地図を使って現在地の確認の仕方を教えてもらう。子どもたちには、なかなか難しかったようだ。

沢の水に触れて冷たさを楽しんだ後、さらに沢をつめて頂上を目指す。沢を離れ、木の階段の道を登って、緩やかになった尾根から、斜面をトラバースすると、1号路に合流する。とにかく人が多く、メンバーを見失わないように細心の注意を払いながら、山頂に到着する。

人でごった返している山頂を過ぎ、モミジ台

で昼食にする。真っ白な富士山がよく見える登山道脇に腰を下ろし、ラーメンやコーヒーをご馳走になる。とにかくほかほか陽気で、日影に入らないと暑くていられないくらいだった。

昼食後、山頂の巻き道から稲荷山コースに入る。子どもたちは、登りに比べて下りは楽だと言っていたが、次第に疲れが溜まってきたようだ。展望の良い稲荷山で休憩し、小さなピーク



を3つほど過ぎて、最後のジグザグの下りを頑張り、ケーブルの清滝駅に到着した。ここで、20分ほど休憩し、解散とする。A君、S君、そしてS君のお父さんと一緒に、帰りの電車に乗り込み、予定より20分ほど早く勝田台駅に着いた。

コースタイム

高尾山口駅(9:35)…琵琶滝(10:05-10:15)…高尾山山頂(11:40-13:05)…清滝駅(14:55)

★伊豆ヶ岳(5月27日)報告

参加者 中1男子2名、親御さん1名
スタッフ7名
別働隊 スタッフ(4名)
会員(健常者1名)

今日もすばらしい青空の下で、山に登ること



ができそうだ。正丸駅で、挨拶と今回の注意事項を説明し、SN先生の指導で体操を行う。木の梢で囀っていたホオジロを確認してから出発する。

石垣に咲くユキノシタや民家の庭に咲くきれいな花を愛でながら、林道を登る。超のんびりペースだったため、先頭のHNさんにもう少しペースをあげてもらおう。アリジゴクのたくさんある登山道入口から、山道となる。キビタキの声やミソサザイの声が周囲にこだまする。

名栗少年自然の家への分岐を過ぎると、岩混じりの道となり、さらに進むと尾根に登る急な斜面となる。子どもたちも力強く登って行った。尾根に出ると、やや傾斜は緩やかになる。休憩を交えて、稜線に到着。男坂に登りたそうな顔をしている人もいたが、今回は女坂を登る。疲れたという子どもたちを励ましなが、ジグザグの登山道を登り、12時過ぎに山頂に到着した。高尾山とは比較にならないが、それでも多くの登山者が休憩していた。



サポート体験をするS君



サポート体験をするA君

昼食後、子どもたちに、視覚障害者のAさんのサポート体験と、自ら目隠しをして歩いてもらう。目が見えなくて歩くことの怖さを実感してもらえたようだ。



伊豆ヶ岳山頂にて

集合写真を撮った後、山頂を超えて南側の下山路を取る。岩混じりや急な滑りやすい稜線の道から離れて、西吾野への道を下る。薄暗い植林帯の道でおもしろみがなかったが、ヤマクワガタの花が少しだけ潤いを与えてくれた。



ヤマクワガタ

林道から車道に出て、長い道のりを歩き、西吾野の駅に到着した。到着時刻は遅れたが、乗車予定の電車に間に合ったため、バタバタしてしまったが、電車に乗り込み、語り合いながら帰途の道についた。

コースタイム

正丸駅(9:55)…登山口(10:30-10:35)…伊豆ヶ岳山頂(12:15-12:55)…西吾野駅(15:50)

子ども登山教室感想文（第1回高尾山）

ボクは、今回初めて山に登りました。長い電車に乗るのも初めてでした。

初めて登山をして、一番すごいと思ったことは、身体に障害を持った人も、そんなものないかのように、スイスイ登って行ってしまったことです。

とくに、朝木さんは全く目が見えないと言うのに、人の力を借りながらも自分と同じ様な動きをしていたのでびっくりしました。

また、自然にも感動しました。つかれて歩きながらも、水の流れる音を聞くと、心がおちつく気がして、また元気が出ました。

こんど二回目の登山の時も、楽しい思い出を作りたいです。

K S 君

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

高尾山は緑がきれいで東京とは思えないくらいきれいでした。

山頂に近くなるとだんだん疲れていき、山頂に着いたらヘトヘトでした。

色々な鳥の鳴声も聞けて楽しかったです。

高尾山には一回行ったことがあったけど、その時は登ることに夢中で周りの風景を見れなかったけど、今回は周りの風景を見ながら登山できたのでとてもよかったです。

WA 君

山 行 報 告

★伊予ヶ岳(3月11日)

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)

会員外(健常者1名)

自宅を出る頃、雨が降っていたので、決行したことが失敗でなかったか心配だった。電車の中でも、次第に風雨が強まり、心配が増してくる。しかし、岩井駅に着いてウオーキングセンターの方の話をお聞きすると、「雨も大分弱くなってきたから、昼頃には晴れますよ」とのこと。この言葉に意を強くして、町営バスのトミ

ーに乗り込む。

天神郷バス停で下り、平群天神社の脇を登っていく。雨は霧雨状となり、ほぼ上がっている。テンナンショウの仲間がによきによきと伸びている。こんなにたくさん生えているのも珍しい。すでに実を付けていたものもあった。タチツボスミレもたくさん咲いていた。

次第に急になる道を登ると展望台に到着した。残念ながらガスに巻かれて遠くが見えなかったが、麓の風景が望まれた。

ここから上部を見ると、ロープが垂れ下がった岩場がある。最初だけで終わらず、次々に現れる急な岩場をロープや鎖を頼りに登ってい

く。雨上がりで滑りやすいので、慎重に登る。空が近づいてくると、山頂に飛び出した。左側（西側）は、すっぱりと切れ落ちている。飛び出した岩場に出てみると、高度感抜群だった。



山頂で記念写真を撮影し、来た道を慎重に引き返す。日が差し始め、青空も見えるようになってきた。気持ちよい雨上がりの展望台で富山や海、房総の山々を見ながら昼食とする。

今からバス停に戻っても、一つ前のバスには間に合わず、予定のバスまでは2時間も待たなければならない。そこで、富山方面に向かってみて、調子が良ければ富山も登ってしまおうということにした。山道を下り、案内板に従って富山を目指す。ナノハナ畑やホトケノザ、ヒメオドリコソウなどがたくさん咲いている。振り返ると房総のマッターホルンと呼ばれる伊予ヶ岳が、急峻な山容を見せていた。

里の風景を楽しみながら、富山に登っていく。

★加波山(3月21日)

参加者 会員(障害者1名、健常者8名)

岩瀬駅で笠間から車で来たSさんとTさんと合流する。お二人に車で加波山神社まで送っていただき、ここから歩き始める。麓の加波山神社は、真っ赤な非常に目立つ建物でした。駐車場の桜は、今にもほころびそうなつぼみを付けていました。

車でも登れる道を登っていくと、北峰と南峰のコルに出た。皇太子ご夫妻がお越しになったという看板を見て、北峰に向かう。展望台から、日が差し込み光り輝く海と大島を楽しむ。富士山は残念ながら見えなかったが、横須賀や三浦半島、遠く伊豆半島も見えていた。



コルまで戻り、伏姫ノ籠窟経由で岩井駅に歩いて戻った。今日は、少人数ということもあり、予定をオーバーして富山まで歩き、充実した山行になった。帰りの車中から、茜色に染まった西空の下に、富士山がシルエットで浮かび上がっていた。

コースタイム

天神郷バス停(10:20)…展望台(10:55,11:00)…
伊予ヶ岳(11:20,11:30)…展望台(11:50,12:30)
…富山(15:00,15:20)…岩井駅(16:15)

三合目の分岐をそのまま進み、小さな沢を渡って登山道に入っていく。少し進むと山火事後に出る。木々が燃えてしまっているため、展望が良く筑波山がよく見える。上空にはパラグライダーやハンググライダーが舞っていた。また、周囲にはタラノキがたくさんある。もう少しすると、美味しいタラノメがたくさん取れそうだ。

さらに行くと、右手には御影石の採石場が現れる。大きな石が累々と転がっていた。ガイドブックには、水場は六合目とあるが、実際には

七合目だったように思う。さらに登り、林道に飛び出した。時間的にここでお昼にしようかと思っただが、加波山神社でもらった地図を見ると、林道からほんの少しで九合目に着きそうなので、そのまま登っていく。確かに、あっという間に九合目に着き、加波山神社の郷社に着いた。そこからちょっとした岩の道を登り、たぼこ神社を過ぎると、加波山神社本殿のある山頂に到着した。ここで昼食にする。Tさんがゆで卵やトマトなどをたくさん持ってきてくださり、美味しくいただいた。他にも柑橘類や漬け物など、どんどん回ってきて、腹が一杯になってしまった。

山頂からは、快調に下る。振り返ると、真っ青な空と冬枯れの木々が美しい。ぽかぽか陽気

が心地よく、芽吹き始めた木もあり、春本番間近を感じた一日でした。



コースタイム

加波山神社(10:05)…三合目(10:15)…七合目水場(11:35)…加波山本宮(12:25,13:05)…加波山神社(14:45)

★角田山(4月7日～8日)

参加者 会員(障害者2名、健常者6名)

☆4月7日

高速バスの車窓からは、谷川岳をはじめとした谷川連峰がくっきりと見え、新潟県側に入ると、巻機山や越後三山が間近に見られた。雪をたっぷり抱いて、真っ白だった。

燕三条で下車し、やひこ荘の車で迎えに来てもらう。やひこ荘に不要な荷物を置き、弥彦山ロープウェイに向かう。

歩き始めると、すぐにニリンソウやキクザキイチゲ、スマレサイシン、ナガハシスマレなどが迎えてくれた。民家の脇の空き地に無造作に咲く山の花たちに、これから先への期待が高まる。

弥彦神社にお参りをし、ちょうど待っていたロープウェイの送迎バスに乗り込み、ロープウェイで一気に山頂駅まで上がる。山頂駅に下りると、日本海が見え、佐渡島もうっすらと見えた。

ここから電波塔の林立する尾根にある階段を登る。カタクリやキクザキイチゲ、オウレンなどが楽しませてくれる。山頂からは、すばらしい展望が広がる。海岸線には寺泊港がよく見え、その向こうには、私のふるさとの出雲崎の海岸線も見えていた。左手に目を移すと、越後平野が広がり、大河津分水が緩やかに流れる。その向こうには、雪を抱いた守門岳が見え、その左には、粟ヶ岳が見える。どちらも立派な山だ。

山頂で腹ごしらえをし、下山にかかる。送迎バスの運転手さんに聞いていた道を下ろうと思ったが、連絡がうまくいかず、ロープウェイの脇の登山道を下ることにした。この道は、ショウジョウバカマが非常に多く、カタクリが一面に咲いているところもあった。コシノコバイモやシュンラン、トキワイカリソウなども咲き、オオミスミソウの花も一つだけ見つけることができた。

予定より遅れて、やひこ荘に17時30分頃到着。美味しいビールと食事に舌鼓を打って、ほろ酔い気分で早々にダウンした。

☆4月8日

宿の車に五ヶ峠登山口まで送ってもらう。登山口で、新潟県で視覚障害者の人たちと登山を楽しむ「新潟あいゆー山の会」のみなさんと合流する。自己紹介のあと、一緒に登りはじめる。登山道の脇には、カタクリがたくさん咲いている。急登が終わる頃、オオミスミソウも見つけた。トキワイカリソウやナガハシスミレなどもたくさん咲いていたが、とにかくカタクリがすごい。全山カタクリの山といっても良いくらい、一面をピンクに染めている。



どこまでも続くカタクリの登山道を行く

しばらく登り、灯台コースと合流すると、ほどなく山頂に到着した。山頂は、非常に広くて、数百人は十分に休める広さがある。

かなり早いのが、昼食タイムとする。新潟のみなさんが、プチトマトやゼンマイを持ってきてくださり、さらにネマガリタケとサケのみそ汁を作ってください、美味しくいただいた。



角田山にて(新潟あいゆーの人たちと)

山頂からは、木の間越しに新潟市方面に続く海岸線が見えた。角田山周辺は、まだ芽吹きを迎えておらず、関東より2～3週間、季節の進み

が遅いようだ。

山頂からはほたるの里コースを下る。少し行くと、急な道を下るようになる。慎重に15分ほど下ると、急な道も終わり、あとはなだらかな道が続く。そして、どこまで行っても、カタクリの絨毯は絶えない。そんな華やかな中に、コシノカンアオイの地味な花も咲いていた。あいゆーのみなさんも、この花は初めてだったらしく、見つけて喜んでた。

近くにある射撃場の音が興ざめするが、それでもカタクリの絨毯はそれを十分に癒してくれる。ほたるの里までもう少しの頃、今度はオオミスミソウたちが迎えてくれた。雪割草と呼ばれ、雪国に春を告げるこの花は、さまざまな色合いを持っている。あなた好みの色に染まりたいなどと古い歌が浮かんでくるが、小さく可憐な花は、いろんな植物と交雑し、色合いから花卉の形までさまざまだ。

オオミスミソウを堪能し、山道を下りると、ここで「新潟あいゆー山の会」のみなさんとお別れする。また、次ぎに会える機会を楽しみにして、私たちはじょんのび館に向かう。タクシーを呼び、巻潟東のバス停から、高速バスに乗り、池袋を目指す。車窓から、今回登った角田山と弥彦山が、優しく佇む姿が望まれた。



オオミスミソウ

コースタイム

4/7 やひこ荘(13:20)…ロープウェイ乗り場(14:10)―頂上駅(14:25)…弥彦山(14:50-15:30)…やひこ荘(17:30)

4/8 五ヶ峠登山口(8:15)…角田山(10:10-11:10)

…ほたるの里(13:30)

★吾国山(4月22日)

参加者 会員(障害者1名、健常者8名)
会員外(健常者1名)

小山駅でMさんと合流し、水戸線に乗り換える。福原駅では、Tさん、Iさんと合流する。今回参加予定だったFさんご夫妻が来ていなかったが、25年ほど前、水戸葵山岳会で一緒だったTRさんが待っていてくれた。山の準備はしていなかったが、運動靴だったこともあり、同行することになった。Tさんに、車で途中まで運んでいただく。

周囲の山々は、桜の花や木々の芽吹きが柔らかく、薄日も差してまさに春爛漫だ。足下には、ムラサキケマンやジロボウエンゴサク、タチツボスミレ、ニオイタチツボスミレなどが咲き、楽しませてくれる。

山間の田んぼを過ぎると、登山道に入り、緩やかに登っていく。途中の林道を過ぎると、急な階段になった。木々の芽吹きや新緑が美しく、渡ってきたばかりと思われる、夏鳥のセンダイムシクイも、「焼酎一杯グイー」と囀っている。足下は、桜の花びらがちりばめられて美しい。



芽吹きの登山道にて

山頂直下では、カタクリの群落に出会ったが、残念ながら花はもうほとんどが終わりだった。しかし、山頂直下の広場は、桜が咲き、芽吹き

の木々と相まって、何ともいわれぬ良い雰囲気を醸し出している。ここで、昼食にする。笠間のTさんが、昨日取ったというタケノコを使ってタケノコごはんを振る舞ってくださった。他にもキュウリの漬け物などがたくさん出て、憩いのひとときを過ごす。



ムラサキケマン

昼食後、山頂に登る。山頂からは、先月登った加波山や筑波山がよく見える。その右下には、霞ヶ浦も見えていた。近くにある難台山は、山腹の木々がまさに「山笑う」という雰囲気を作っている。難台山の左後方には、太平洋も見えていた。

山頂を後にして、下山にかかる。下山は、ちょっとスピードオーバー気味で、休憩もせず、あっという間に下ってしまった。このことは、反省点だ。次回はもっと休憩を取りながら、ゆっくり下ることにしたい。

福原駅に戻り、Tさん、TRさんと別れ、車中の人となる。Tさんから、いただいた宝物のようなタケノコがみんなのザックに収まっていた。

コースタイム

鳥居手前(10:10)…山頂広場(11:45-12:30)…吾国山山頂(12:35-12:45)…鳥居手前(13:55)

★金時山(5月20日)

参加者 会員(障害者5名、健常者12名)
会員外(健常者1名)

高速バスが少し遅れて、金時登山口に10時頃到着。歩き始めるとすぐにキビタキの声が聞こえた。軽やかな歌声を、今年初めて聞くことができて感激だが、登山道にはガビチョウの声が大きく響き渡り、少し興ざめた。



樹木の高さが低くなってくると、矢倉沢峠に到着した。多くの人が休憩している。ここから少し登ると、大涌谷がよく見えた。その左手には明神ヶ岳も見え始めた。足下には、ミヤマキンポウゲかと思う花が咲いていた。タチツボスミレなども、もちろんたくさん咲いている。登山道の近くで、ウグイスやコルリ、ヤブサメなどの声が聞こえた。

岩混じりの道を登り、金時神社からの道が合流すると、最後の急登になる。シロヤシオツツ

ジヤトウゴクミツバツツジが咲き、足下にはギンリョウソウの白い花も咲いていた。

山頂に飛び出すと、かなり多くの人たちが休憩していた。シートを敷いて昼食とする。残念ながら富士山は厚い雲にすっぽりと被われている。神山の右下には、芦ノ湖の湖面が見えている。周囲の新緑が美しい。



山頂の看板の前にあったまさかりをSさんに持ってもらって、全員で記念写真を撮り、下山にかかる。乙女峠への道も岩混じりだが、落ちるような危険なところは少なく、順調に下る。こちらもシロヤシオが満開だ。

長尾山を過ぎ、乙女峠で休憩し、バス停を目指す。やや滑りやすいが、危険なところはなく、バスの時間に余裕を持って到着した。

コースタイム

金時登山口(10:15)…矢倉沢峠(10:50-11:00)…
金 時 山 山 頂 (12:05-12:45) … 長 尾 山
(13:35,13:50)…乙女峠(14:10,14:20)…乙女峠
バス停(14:55)

★会津駒ヶ岳(リーダー養成コース)と扇山は、悪天のため中止しました。

講習会報告

★岩登り技術講習会(鷹取山)(4月15日)

参加者 会員(障害者1名、健常者7名)

会員外(健常者3名)

今回の岩登り講習会も、岩登りをしないで、のんびりする人にも参加していただいた。中央広場の緑の上にシートを敷き、餅や豚汁、サラダ、リンゴなどをいただいた。

岩トレ組は、いつもの初心者向けルートが使われていたので、近くにあったレイバックで登る3級程度のフェースを登った。昼食の後は、これもいつもの垂壁にチャレンジした。今回初めて岩トレに参加した小学校6年生のHちゃんは、岩登り初体験だったが、ここを登りきってしまった。娘さんに登られてしまったのでは、お父さんは黙ってはいられません。お父さんも初

トライで登り切りました。会員のTさんの息子さんMさんも登り切り、みなさんのバランスの良さに脱帽です。



会員参加者も、チャレンジして、心地よい疲れを残して、ウラシマソウの咲く登山道を下りました。

★5月26日の岩登り技術講習会（日和田山）は、悪天予報のため中止しました。

その他事業報告

★定期総会(5月12日)

出席者 社員(正会員)53名(うち書面委任者38名)

社員(正会員)総数(71名)の1／3以上の出席があり、総会が成立

2006年度事業報告、2006年度会計決算報告、監査報告、2007年度事業計画及び予算、役員改選について審議が行われ、満場一致で承認された。

詳細は、総会議事録をご参照ください。

★吉見百穴ふれあいハイキング(3月4日)

参加者 会員(障害者4名、健常者13名)

会員外(健常者8名)

の車道を歩き、市の川に架かる橋を渡ると早速、ジョウビタキやホオジロ、ハクセキレイなどが登場した。ホオジロとヒヨドリの水浴びも見ることができた。吉見百穴の手前の岩室観音を見学する。吉見百穴で、トイレを済ませ、市の川沿いの道を歩き始める。

歩き始めてすぐに、カワセミが姿を見せてくれた。望遠鏡に収め、次々に観察する。一度に2羽のカワセミが入ったこともあった。おなかのオレンジと背中ブルーが美しい。キセキレイ

東松山駅を出発し、吉見百穴に向かう。百穴は「ひゃくあな」が正しい読み方だった。駅前

イやハクセキレイなども楽しみながら、市の川沿いに歩く。

途中工事中となっているため、土手の斜面を下って、下の道に下りる。ヒバリが上空で囀り飛翔をしている。遠くではノスリが悠然と飛んでいる。春らしいのどかな風景だ。

車道を渡って、大沼の畔に出る。ここでもカワセミを発見。大沼の畔の東屋で昼食とする。昼食中にもカワセミが湖面を飛んでくれた。昼食後、大沼をほぼ一周し、吉見百穴に戻る。途中、ミツマタが咲き始めていた。

吉見百穴を見学後、東松山駅に戻った。途中、道を間違ってしまう、来た道と違ってしまっただが、無事に東松山駅に到着し、解散した。とにかく、春爛漫のぽかぽか陽気の中で、野鳥を中

心に楽しめた一日でした。



大沼にて

コースタイム

東松山駅(10:15)…吉見百穴(11:10,11:30)…大沼(13:00,13:45)…吉見百穴(14:30,15:05)…東松山駅(15:50)

★舞岡公園ふれあいハイキング(4月1日)

参加者 会員(障害者5名、健常者9名)

今朝方までの雨が嘘のように晴れ上がり、雲一つないすばらしい天気になった。さらに、気温も鰻登りで、半袖でも良いくらいのぽかぽか陽気に恵まれた。



舞岡公園にて

舞岡駅を出て、林間の道を行く。すぐに、タチツボスミレやオオシマザクラ、ヤマザクラなどが迎えてくれる。ウグイスやシジュウカラ、ヤ

マガラなども歌っている。カップ池におり、階段を登って、中丸の丘に着く。周囲の里山は、桜の花や木々の芽吹きがやわらかく、ほんわかとした感じを醸し出している。一面に広がっていたタンポポは、カントウタンポポだった。

ウグイスが頭の上の木に止まり、囀ってくれた。なかなか見ることができないウグイスをかなり長い時間、すぐ近くで見ることができ、みんな大満足だった。古民家を訪ね、芽吹きの



満開の桜の下でポーズのK君

木々を楽しみながら、さくら休憩所へ。おおなばの丘は、花見客で一杯だったので、さくら休憩所の芝生の上に腰を下ろし、昼食とする。古民家の近くで買ってきた竹とんぼを、T君も大

人も、一所懸命楽しんだ。近くにいた子どもたちも、おそろおそろ近づいてきて、しばらくするとみんなで竹とんぼに熱中していた。

TKさんのところに、Hさん、Sさんから電話が入り、これから合流するという。もみじ休憩所付近で合流し、一緒に歩く。この付近は、ソメイヨシノが八分咲きくらいだったろうか？

耕作体験田んぼを耕す人たちの脇を通り、アオシギを再度見たりしながら、公園の外に出て、

人口の小川に沿って歩く。小川には、オレンジ色のメダカが2匹いた。ザリガニもいたようだ。最後は、菜の花畑の脇を歩き、舞岡駅に到着。駅に入る前に、喉を潤してから、車中の人となる。

コースタイム

舞岡駅(10:00)…さくら休憩所(12:10,13:30)…
舞岡駅(15:00)

★新川上流ミニハイキング(4月14日)

参加者 会員(障害者2名、健常者6名)
会員外(障害者3名、健常者7名)

社会福祉法人「友愛みどり園」のみなさんと一緒に八千代市内などを歩く第2回目のミニハイキングは、八千代ふるさとステーションから新川の上流を歩いた。



予定では、阿宗橋から歩く予定だったが、土日はバスがもえぎ野までしか行っていないということで、予定を変更し、米本団地から八千代ふるさとステーションに行き、新川の畔を一周することにした。

菜の花が咲く新川の左岸を思い思いに歩き、平戸橋まで行ったが、物足りなそうな雰囲気だったので、神尾橋まで行ってみることにする。神尾橋手前で昼食にする。日差しを遮る場所がなく、初夏を感じさせる今日の天気では、ちょっと暑かったが、Yさんが作ってきてくださったタケノコごはんなどを美味しくいただき、のんびりとする。上空には、ヒバリが囀り、セッカが近くのアシに止まってくれた。望遠鏡で何人かの人に見ていただく。

神尾橋を渡って、川に囲まれた堀の内を歩いて、神崎川にかかる橋を渡って、新川の右岸に渡る。緩やかに蛇行する新川の畔で、記念写真を撮り、八千代橋を渡って八千代ふるさとステーションに戻った。

明け方の雨が嘘のように晴れ上がって、初夏を思わせるぽかぽか陽気の中で、春の花やヒバリの歌声を楽しみながら歩いた一日でした。

コースタイム

米本団地(11:00)…八千代ふるさとステーション(11:05,11:30)…神尾橋付近(12:00,12:30)…
八千代ふるさとステーション(13:45,14:00)…
米本団地(14:10)

★狭山丘陵ふれあいハイキング(5月13日)

参加者 会員(健常者10名)

会員外(障害者1名、健常者8名)

勝田台駅から6人が乗車し、池袋で5人が合流。さらに小手指駅で全員揃い、バスに乗車してJA宮寺支店前で下車。



西久保湿地から大谷戸湿地に向かう

歩き始めると、早速カワラヒワが電線に止まって囀っていた。茶色の羽根の一部に黄色があることを確認してもらえた。JAの駐車場で自己紹介や班編制をして、出発する。

民家や小さな工場の建つ通りを抜けると、西久保湿地に到着する。狭山茶の畑や湿地が広がる。トイレなどを済ませ、湿地を抜けて樹林の丘陵を登り始める。やわらかな緑を楽しみ、樹木の名前を当てるクイズに連敗しながら、丘陵の上に登りついた。

個人山行報告

★地藏岳(3月17日～18日)

参加者 会員(健常者3名)

☆3月17日

御座石鉱泉でテント場使用料を支払い出発



ここから大谷戸湿地に向けて下る。滑りやすい道なので、ゆっくりと下る。湿地に下りると、ムラサキサギゴケやミツバツチグリなどがたくさん咲いていた。トンボはシオカラトンボだろうか、たくさん飛んでいた。

湿地を越えて、さいたま緑の森博物館案内所の1階裏手にあるベンチ付近で昼食にする。ここからは、狭山湖外周道路を歩き、狭山湖堰堤を目指す。セリバヒエンソウやハンショウヅル、エゴノキの花などを楽しみ、コゲラやエナガを見ながら歩き、堰堤脇のサクラの広場に到着。ここから堰堤を歩き、西武球場前駅を目指す。狭山湖は、午後の日差しが湖面を輝かせていた。

コースタイム

JA 宮 寺 支 店 前 (11:00) … 西 久 保 湿 地 (11:15-11:25) … 大 谷 戸 湿 地 (12:20-13:05) … サクラの広場 (15:00-15:15) … 西武球場前駅 (16:20)

する。私たちの行く前を一匹の犬が先導してくれる。確か7年前の暮れに鳳凰三山を縦走した時も、この犬が先導してくれた記憶がある。私たちが登るのを待ちながら、30分くらい先導してくれた。

北面には所々雪があり凍っているため、西ノ平の少し上でアイゼンを付ける。とにかく急登の連続だ。時々、木々の間から八ヶ岳や甲斐駒ヶ岳が見えて、心を躍らせてくれた。燕頭山への最後の登りは、すごく急だ。重いザックが肩に食い込む。ようやく傾斜が落ちたところが燕頭山だった。ここからは観音岳や薬師岳が見える。山頂付近の木々には、サルオガセが無数にぶら下がっていた。

かなり時間をオーバーしていたため、鳳凰小屋まで行くのは無理と判断し、どこかよいところにテントを設営したいと思っていた。燕頭山から少し行ったところに、駒見平という甲斐駒ヶ岳や八ヶ岳がよく見える場所がある。ここは、ちょうどテントの設営に良さそうなので、少し早い気がするがここをテント場にする。

Hさんが準備してくれた水炊きを、腹一杯いただき、気持ちよく眠りについた。

☆3月18日

夜半の2時50分に起床する。空は満天の星空で、北斗七星が目の前に見えた。麓の夜景もすばらしい。水炊きの残りをおじやにして食べて出発する。

2401mのピークは地形図では稜線通しに登山道がついているが、実際にはずっとトラバースで、ピークは踏まなかった。赤布をたよりに歩いたが、キツネのような動物の足跡が、しっかりと登山道に沿って続いていて、私たちに登山道の場所を教えてくれているようだった。

トラバースは、途中で栈道があったはずだが、雪が隠してしまって登りには気がつかなかった。新雪が降ると、すぐに雪崩れそうな急斜面のトラバースもあり、慎重に通過する。こんな場所は、重い荷物でなくてよかったと思う。

トラバースを終える頃、山々に日が当たり始めた。観音岳や地蔵岳がモルゲンロートに染まっている。鳳凰小屋に6時15分に到着する。

小屋は、雪が入口をふさいでいるが、冬季小屋はドアがすぐに開き、入ることができた。8人くらいは十分に泊まれるスペースがある。布団も置いてあった。



小屋からは、小さな沢を渡って小さな尾根を登る。トレースの後が不明瞭なところがあって、膝上くらいまでのラッセルをするところもあった。尾根から賽の河原に出て、斜面を直上する。きつい登りを頑張ると、地蔵岳の看板の所に到着した。地蔵岳のオベリスクが天を突き刺



している。Yさんはさらに登って、オベリスクに取り付いている。無理をしないように伝え、私はHさんを待ちながら、周囲の景色を確認する。甲斐駒ヶ岳や仙丈ヶ岳はよく見えたが、北岳は隣の2750mのピークに登らないと見えないようだ。

Hさんは到着すると、何十体も並んだお地蔵さんに何度も手を合わせていた。北岳を見ようと、2750mのピークを目指す。疲労の溜まった体を一步一步持ち上げ、白い雪の上に足跡を記す。登りついたピークの先に待っていてく

れたのは、神々しいまでに白く輝く北岳だった。北岳、間ノ岳、農鳥岳の白峰三山が、ひときわ大きく聳えている。その左に見えたのは、塩見岳に続く蝙蝠岳だろうか？ 北岳の右手に目



を転じると、真っ白な仙丈岳、その右にあるアサヨ峰のさらに右手には、雪が付かないほど急峻な甲斐駒ヶ岳が聳えている。甲斐駒ヶ岳の左手には乗鞍岳、右手には槍穂高連峰が見える。すぐ手前には地蔵岳のオベリスクがすくくと立ち上がり、その右手には八ヶ岳連峰が見える。南側には観音岳がせり上がっている。風もなくいつまでもここにいたい、名残惜しい風景に

背を向け下山にかかる。地蔵岳のオベリスク寄りからは、富士山も見えていた。

地蔵岳からは、登ってきたルートそのまま引き返す。下りは早い。鳳凰小屋までわずか25分だった。テント場に戻り、テントを撤収し、コーンスープなどを湧かして昼食にする。ここから重い荷を背負って、下ることになる。燕頭山を過ぎたところで、今回初めて、3人組のパーティーにあった。今回の山行は、3人だけの静かな山行だった。麓近くになると、ゴジュウカラの歌声が響き、春を感じさせる日差しが降り注いでいた。

コースタイム

3/17 御座石鉱泉(10:15)…西ノ平(11:05)…燕頭山(14:45,15:00)…駒見平(15:30)泊
3/18 駒見平(4:30)…鳳凰小屋(6:15,6:30)…地蔵岳(7:55,9:00)…鳳凰小屋(9:25,9:35)…駒見平(10:40,12:00)…御座石鉱泉(14:35)

各種連絡事項

●定款変更の承認

2007年1月に行った臨時総会で成立した定款変更が、千葉県庁から承認されました。

○新役員

新役員として、平野政人氏、吉田聡子氏が就任しました。重任の網干、松井、横溝、鎌田と共に、よろしくお願いいたします。また、朝木

▲ホームページ情報

ホームページのアクセス数は、2月末日現在約39000のアクセスがありました。ホームページは、機関誌に掲載できない多くの写真が掲載されています。パソコンをお持ちの方は、ぜひご覧ください。さらに、メールを使える方同士で、メーリングリストも運営していますの

今後は、法務局に申請を行い、登記を行います。

けい子氏が任期で退任することになりました。長い間、ありがとうございました。

で、パソコンをお持ちの方で、メーリングリストに参加を希望される方は事務局まで申し込みください。また、各種情報も迅速に流しています。もし、これからパソコンを購入したいという方がいましたら、ぜひ事務局までご相談ください。

今後の計画

●2007年度事業計画の一部訂正

11月11日に予定していた茅ヶ岳を、11月3日に変更しましたので、よろしくお願いします。理由は、毎年恒例の八千代市市民活動サ

ポートセンターの「こんにち“わ”！ふれあいまつり」が11月10日に開催されることになったためです。

○個人山行の計画

個人山行を計画されている方は、事務局まで計画書を提出ください。計画書を提出していないと、スポーツ保険の対象にならない可能性が

あります。もしもの時のために、必ず提出するように心がけてください。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

3月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。(敬称略)
正会員
5名

賛助員

2名

○退会者のお知らせ

3月以降、残念ですが、以下の方が退会されました。
正会員3名、賛助員7名、家族会員3名

【スポーツ保険のご紹介】

山仲間アルプで加入しているスポーツ保険は、掛け金が年間（4月1日から翌年3月31日まで）1,500円で、下記の補償があります。

- | | |
|-----------|--|
| 1. 障害保険 | 死亡 2,000 万円、後遺障害 3,000 万円、入院(日額)4,000 円、
通院(日額)1,500 円 |
| 2. 賠償責任保険 | 身体賠償(1人 1 億円、1 事故 5 億円、免責 1,000 円)
財物賠償(1 事故 500 万円、免責 1,000 円) |
| 3. 共済見舞金 | 160 万円 |
| 4. 注記 | 雪山や沢登りなど、ザイル、ピッケル、アイゼンを使うような山は、保険金の対象となりません。そのような山に行かれる方は、各自山岳保険に加入願います。 |

編集後記

・理事長のつぶやき

先日、中途失明の男性のご家族の方から、その男性が、「(自分が) 目が見えないと思って、(家族の方が) 影で何をやっているか分からない」と言って疑うので困るという話をお聞きしました。所謂、猜疑心を持っているということですが、「目が見えないのですから、そういう気持ちを持つのは当然ですよ」とお伝えしました。健常者でも、自分がいないところで、どんな噂をされているか心配になることがあると思います。それは心の弱さなのですが、多くの人は弱さをたくさん持っていると思います。そんな自分自身の弱い心を見つめると、猜疑心を持つ男性のことも、当たり前のこととして、受け入れることができるのではないでしょう

か？ 猜疑心を持つ理由は心配だからです。何をやっているのか、丁寧に説明して、少しでも不安感を取り除いてあげることが大切なのではないかと思います。

また、人から疑われたら、誰でも良い気持ちはしません。中途失明の男性には、いつかそのことも分かってもらえたらと思っています。

今回の一こまを通じて、相手の気持ちに立って考えることの難しさをあらためて感じる事ができました。

このことは、そのまま「共に楽しむ」ことの難しさに通じます。簡単なことではありませんが、共に楽しむことのできる社会を目指したいですね。

・次回発行予定は、9月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

